

令和5年度 全国学力学習状況調査 結果分析

朝来市立中川小学校

【国語】

1 概要

- 全国平均・県平均と同程度の正答率である。
- 「話すこと・聞くこと」は、やや上回っており、「書くこと」は、下回っている。
- 「知識・技能」は、やや下回っており、「思考・判断・表現」は、同程度である。

2 できた問題

- 3一 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。
- 3二 目的に応じ話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
- 3三 敬語を理解している。

3 苦手とした問題

- 1二 図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できる。
- 1四 文章の種類とその特徴について理解している。
- 2三 情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し、使うことができる。

4 苦手とした要因（●：問題の趣旨 ■：要因）

- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。
- 条件を満たすように記述する問題で、二条件であれば正答できるが、今回のような四条件では正答に近づけない。
- 文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる。
- 問題文の趣旨を理解できない。また、選択肢の内容を理解できなかったと考えられる。

5 指導上の工夫と改善点

- 国語の学習を中心に、字数制限や与えられた条件に沿った作文の機会を増やし書き慣れる。
- 読書習慣の確立が必要。本を読むことで文脈を捉えて思考・表現する力が培われる。

【算数】

1 概要

- 全国平均・県平均を下回る正答率である。
- 「数と計算」「図形」「変化と関係」は、下回っており、「データの活用」は、同程度である。
- 「知識・技能」は、やや下回っており、「思考・判断・表現」は、下回っている。

2 できた問題

- 1(2) 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができる。
- 4(2) 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる。
- 4(4) 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。

3 苦手とした問題

- 1(3) 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。
- 2(3) 正三角形の意味や性質について理解している。
- 2(4) 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。

4 苦手とした要因 (●:問題の趣旨 ■:要因)

- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。
- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。
- 式や言葉を用いて記述するという条件が与えられているにもかかわらず、式だけしか書けていない解答が多い。また、テープ幅が同じ＝三角形の高さが同じであることは、暗に示されているのだが、それに気づいていない。つまり、順序だてて考えられていない。
- 正三角形の意味や性質について理解している。
- 空間認知能力に欠けている面がある。60°という解答が多いのはその証である。

5 指導上の工夫と改善点

- 正答探しにばかり目を向けずに、「なぜこうなるのか」に重点を置いた学びを充実させる。「まずは、…です。」「次に、…です。」「このことから、…です。」という説明の型に慣れさせる。
- 空間認知能力を鍛える
 - ①絵を描く ②ブロック・積み木 ③折り紙 ④パズル ⑤外遊び(おにごっこ等)

【生活・学習状況】

【生活】

【よい傾向】

- 朝食を毎日食べている。
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- 自分には、よいところがあると思う。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 学校に行くのは楽しいと思う。
- 友達関係に満足している。
- 地域の行事に参加している。

【課題】

- ▲困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- ▲自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- ▲普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある。

【学習】

【よい傾向】

- 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

【課題】

- ▲新聞を読んでいる。
- ▲読書は好き。
- ▲自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する。
- ▲授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。

【教科】

- ・国語や算数の勉強は大事であり、将来社会に出た時に役に立つと思っているが、好きだという割合は少ない。
- ・英語の勉強は好きであり、大事だと思っているが、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う。」の割合は低い。

【改善の工夫】

- 【生活】については、自尊心が高く何事も前向きに快活に取り組んでいる様子が伺えるものの、「困った時に大人に相談する」「幸せな気持ちになる」等の割合が低く、一見矛盾した結果が表れている。「特別の教科 道徳」を通して、自己を見つめ、自己の生き方について深く考えることが必要である。
- 【学習】については、何よりも文字に触れる生活習慣が必要とされるが、これは全国的な傾向でもあり、改善していくには難しい課題である。日頃から、本の魅力や楽しさを伝えることの積み重ねが必要である。まずは、教員自身が読書に浸ってほしい。家庭においても読書に浸る環境が望まれる。